

刊行にあたって

超高齢社会となった現在、生活習慣病を有する患者が急増している。とりわけ脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧、糖尿病は加齢とともに増加し、死亡者数も増加している。これに伴い生活習慣病治療に関わる医療費が増加し、平成20年度では総医療費が34.8兆円に達し、平成10年度の総医療費は1.8倍に膨れ上がっている。

脳血管疾患、虚血性心疾患、糖尿病は、いずれも動脈硬化症と関わりが深いことから、厚生労働省は、これらの生活習慣病の予防を目指し、2000年から健康増進法に基づく国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」を施行してきた。またメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）は、高血糖、脂質異常、高血圧の共通の要因であり、動脈硬化症と密接に関わるとし、これを予防することを目的にメタボリック検診（メタボ検診）を2008年4月から実施した。

一方、歯科においては、健康日本21に「歯の健康」としてう蝕と歯周病が取り上げられた。国民病とも言われる歯周病は、有病率で見ると成人の8割が口腔内のいずれかの部位に有ることがわかっている。健康日本21の中間報告を見る限り、歯周病の罹患率はやや減少する傾向があるものの、目標値にはほど遠いものである。

このような社会的背景をもとに、歯周病と生活習慣病との関係を見ると、歯周病と糖尿病への関心が近年富に高まっているといえる。1990年代後半に歯周病と全身疾患、とりわけ糖尿病との関わりについての研究がスタートし、これまでわかっていた糖尿病の歯周病増悪への関わりに加え、反対に歯周病が糖尿病に対して関わっていることを示唆する研究が発表されるようになってきている。

本書は、糖尿病の病態・治療法・合併症、歯周病と糖尿病の相互作用を理解するための情報を提供するものである。さらに歯科治療、とりわけ歯周治療における注意点や患者指導、歯周治療の医療経済への効果など幅広く理解できるよう、第一線の専門の先生方に執筆していただいた。本書が読者の日々の臨床で活かされ、歯科医療が国民の健康に貢献することを祈念する。

平成24年3月

野村慶雄